

教育センターニュース

四日市市教育委員会 教育支援課 〒510-0085 四日市市諏訪町 2-2 (四日市市総合会館6階)
TEL (354)-8283 (代) FAX (359)-0280
ホームページ <http://www.yokkaichi.ed.jp/e-center/>



教育支援課
マスコットキャラクター
しえん君



■特集 研修・研究グループより、特別支援教育・相談グループより

「やめる へらす かえる」

教育支援課 浅川 由子

教育センターから教育支援課
になって丸二年が経過しました。
この間、「教師力向上サポートブ
ック」による研修、ICT活用出
前研修、U-8事業、相談支援フ
ァイルの作成など、教育センター
時代にはなかった新しい事業を
数多く始めています。しかし、始
めるだけではありません。各種会
議や調査など、それまで実施して
きたことを見直し、それらを中止
したり回数を減らしたりしてき
ました。何かを始めるときにはそ
のかわりにそれまでの何かをや
めたり、減らしたり、変えたり(替
えたり)しなくては、どんな業
務が増大していったてしまいます。
「やめる へらす かえる」には
コツがあります。一つめはその事
業や会議のねらいが何であるか

明らかにすることです。ある事業
では会議と文書報告をなくし、研
修事業だけ残すことに変更しま
した。これによってこの事業のね
らいは達成し、委員の負担も軽減
することができました。
二つめは仕事の優先順位を考
えることです。出前研修や訪問支
援は重要な業務であり、これらは
最優先に行う必要があります。そ
の分、文書報告を減らすなど効率
的な事務処理に取り組んでいま
す。何を大切にするかということ
がポイントです。
三つめはICTの活用です。共
有フォルダやメールを活用する
ことで、手間を取らず確実に情報
交換や確認ができます。課内会議
や研修にコンピュータや電子黒
板を使うことで、紙だけでなく、

時間の節約もできます。

従来行ってきたものを改革す
るには決断が必要です。しかし、
教育課題が山積する中、教師の多
忙化解消と子どもと向き合う時
間の確保を考えれば、今こそ改革
の時といえるのではないでしょ
うか。

教育支援課事務室のホワイト
ボードに貼ってある「やめる へ
らす かえる」の文字を見なが
ら、考えるこの頃です。





30分で自己分析のススメ

今年も「教師力向上サポートブック」を使った自己研修のスタートです！

一学期もまもなく半ばを迎え、学校園の活動が軌道に乗り始めるころです。
今年も教師力向上サポートブックを使った自己研修をスタートさせましょう！

◆ 自分を知る

～自己分析なくして目標は語れない～

今年の自分は「何をめざすか？」を決めるのは、自分と向き合った自分自身の気づきです。自己分析なしに目標や計画は立てられません。まずは「教師力自己・相互研鑽」（サポートブック資料No.1, 2）を使って自己分析をします。

忙しい日常の中で、自分たちのための30分を確保することが、研修担当者の「段取り力」の見せどころ！

みんなで一緒に取り組むことが重要です。

◆ みんなでやる

～自己分析のための30分を確保する～

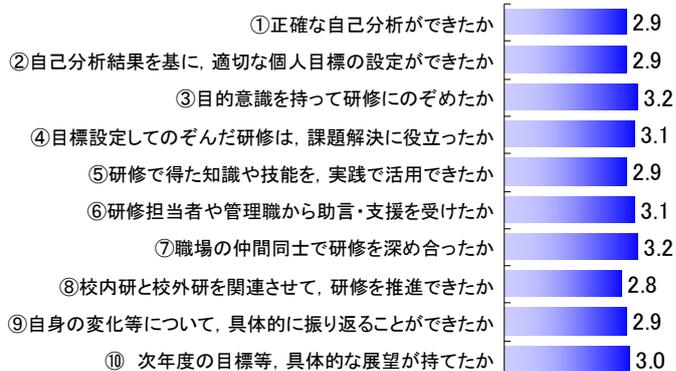
自己分析の時間を30分と決めて、集中してやるのがポイント！校園内研修会や職員会議の中で、思い切って30分を確保します。個人の分析ですが、職員全員で一緒にやるのがポイント。分析の交流ができれば、より有効ですね。



けんしゅうくん

研修活性化のキーワードは「自分を知る」「みんなでやる」

H21 教師力向上サポートブック総合評価(4段階)



昨年度のサポートブックの取組について、全校園の評価をまとめました。四日市市の学校園における研修の特長が表れています。評価の高かった項目は以下のとおりです。

- ③ 目的意識を持って研修にのぞんだ
- ⑦ 職場の仲間同士で研修を深め合った

自己分析は研修の「目的意識」を明確にします。また、同僚とともに進めることで研修効果が深まります。

「個人年間研修計画と評価」シートをつくる

～記入例の青い部分を記入します～

自己分析をもとに、「個人年間研修計画と評価」シートをつくります。記入例（下図）を参考に、青い部分を記入しましょう。目標はより具体的に！

◆個人目標の「学校運営等」って…？

教科指導以外の部分で考えます。校務分掌や校園内での自分の立場（〇〇委員会担当、ミドルリーダー等）を念頭に設定しましょう。基礎育成期であれば、学校運営＝学級経営としてもよいですね。

例）・子どもの活動が見える、特別支援教育の視点を取り入れた教室環境づくり（基礎育成期）

- ・あいさつと言葉づかいを大切に生徒指導（深化・成熟期、生指担当）
- ・学年団（教師）と子ども、家庭、地域を結び付ける情報発信をする（発展・充実期）
- ・小学校の指導のエッセンスを本校（中学校）で生かす、広める（円熟期、学びの一体化担当）

◆研修計画って何を書けばいい？

目標達成に必要なことを、より具体化します。（回数、名称、数値などを明確に！）

例えば…

- ・研修講座 S000 に参加
- ・〇〇先生の△△の授業を参観（学期◆回以上）
- ・校内〇〇委員会で△△について◆回以上提案
- ・〇〇についての通信を、月2回発行
- ・学年の若手先生の授業を月1回以上参観してアドバイスを

一年間の中で「何に取り組みのか」「どう取り組みのか」を記入しましょう。

平成22年度 個人年間研修計画と評価		四日市市立〇〇小学校	
職名・名前	教諭 四日市 入道	おこな分掌	児童会、研修
個人目標	教科指導 子どもの気づきを生み出す視 年度始めに記入します	スステージ	基礎育成期（経験4年）
個人目標	学校運営等 子どもたちのかめむけが深まる学校づくりについて学ぶ	スステージ	基礎育成期（経験4年）
分類	研修計画	研修の実施	総合評価
教科指導	日南市教員研修講座 ○A 5000 方眼上・授業づくり研修1(小・中・高) 公立小・中・高 研修受講	今年度の研修について先生との授業を参観、授業づくりについて研修した。それぞれ研修も出し合い、意見を交換することで、たくさん学びを得た。	4
	日南市教育研究協議会 ○A 5000 研修受講(小・中・高)	協議会の活動に積極的に参加し、授業の最新動向について学び、実践に活かすことができた。	3
学校運営等	日南市教員研修講座 ○A 5000 方眼上・授業づくり研修1(小・中・高) 公立小・中・高 研修受講	今年度の研修について先生との授業を参観、授業づくりについて研修した。それぞれ研修も出し合い、意見を交換することで、たくさん学びを得た。	4
	日南市教育研究協議会 ○A 5000 研修受講(小・中・高)	協議会の活動に積極的に参加し、授業の最新動向について学び、実践に活かすことができた。	3
個人研修	① 正確な自己分析ができたか ② 自己分析結果を基に、適切な目標設定ができたか ③ 目的意識を持って研修のぞんだか ④ 目標設定して取り組んだ研修が課題解決に役立ったか ⑤ 研修で得た知識や技能を、実践で活用できたか	⑥ 研修担当者・管理職から助言・支援を受けたか ⑦ 職場の仲間 ⑧ 校内外関係者 ⑨ 研修の活性化 ⑩ 次年度の目標等、具体的な展望が持てたか	3.3
備考	面談のメモ等を記録します		

教育支援課 特別支援教育・相談グループより

1 地域特別支援教育コーディネーターの紹介

Aブロック 羽津小 杉本恵里子 先生 桜中 平野雅也 先生

Bブロック 常磐小 伊藤二三郎 先生 西笹川中 小林正美 先生

Cブロック 泊山小 近田充 先生 南中 佐藤英子 先生



そうたんちゃん

今年度は小学校3名、中学校3名の地域特別支援教育コーディネーターが活動しています。活動日が週1日（原則木曜日）となったため、学校訪問回数は昨年度よりも減少します。訪問要請に際しては、校内委員会等で事前によく協議し、対象とする子どもを絞り込むなどの工夫をお願いします。

2

相談支援ファイルの導入が進んでいます！

四日市市教育委員会では、早期からの途切れのない支援を実現するためのツールとして、関係諸機関とも連携しながら、相談支援ファイルの有効活用を図っています。市内の幼稚園、小学校、中学校では503冊の相談支援ファイル(平成22年4月23日現在)が活用され、その後も着々と新規の作成が進んでいます。



◆ 子どもの状況に合わせた運用を！

【プロフィール表】

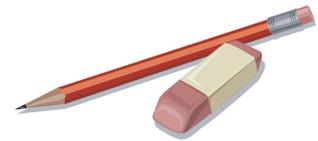
- 1 個別の教育支援計画に基づく特別支援を行っている場合（特別支援学級等）
 - ・個別の教育支援計画（No.1～No.5）の写しを綴じ込む。
 - ・目標や手立て、達成状況などを、家庭訪問や学期末の懇談時に保護者に説明する。
- 2 情報共有ファイルとして活用している場合（通常学級等）
 - ・ファイル作成時に No.1 は保護者に記入してもらう。
 - ・必要に応じて、保護者と協力して No.2, No.3 を作成する。

【レポートファイル】

- ・家庭での様子や関係機関で聞いてきたことは保護者が記入する。
- ・園や学校での様子を教師が記入する場合は、保護者の了解を得ること。（保護者に説明しながら記入してもよい）

【その他】

- ・その他、支援に役立つ情報を綴じ込む。（保護者の同意を得ること）
- ・同意書がない場合は整えておく。
- ・来年度から、進学先等へのファイル引継は保護者が行う。
- ・相談支援ファイル台帳を作成し、運用の状況を把握する。



3

特別支援教育の実践研究をします

(国) 自閉症に対応した教育課程の在り方に関する調査研究実践校 ～2年次～

西日野にじ学園・四郷小学校・笹川中学校

(県) 特別支援教育総合推進事業実践研究指定校 ～2年次～

三重西小学校

